

アミグロー

■登録番号：輸第7881号（パルサーインターナショナル登録）

■登録年月日：2001.08.10

■肥料の種類：家庭園芸用複合肥料

■保証成分：窒素全量 0.11%、水溶性加里 0.15%、水溶性苦土 4.00%、水溶性マンガン 0.14%、水溶性ほう素 0.35%

■有効成分：動植物発酵抽出液含有成分：窒素、カリウム、アミノ酸類、核酸類、有機酸類、糖類

その他の含有成分：マグネシウム、マンガン、ホウ素、亜鉛、モリブデン

■包装：1ℓ×12本、5ℓ×4缶

【特長】

- 吸収が早く、速やかに効果が発現するアミノ酸入り葉面散布液肥。
- 収穫物の食味、色つや、形状などが向上し品質アップにつながる。
- 植物の環境ストレスに対する抵抗力がアップする。作物の安定収穫をはかる。
- 果樹、野菜、畑作物、花類まで幅広い作物に使用可能。

【アミグローとは】

- アミグローは、日本伝統の発酵技術と最新のテクノロジーを応用した技術が、ブラジルの豊富な資源と結びついて生産されている。つまりアミグローは小麦胚芽・大豆粕・魚などを原料に使い、日本古来の麴で熟成したもの（アミノ酸類、核酸類）に、植物に必要な要素（マグネシウム、マンガン等）を適度に加えて作ったアミノ酸入りバイオ肥料である。アミグローの含有する多種類にわたる成分は、植物体内でその栄養源として総合的な効果を発揮する。

【散布事例】

アミグローを400～800倍に希釈し、茎葉部に十分かかるよう散布する。主な作物の使い方は以下のとおり。

作物名	期待される効果	使用方法		
		散布時期	回数	希釈倍数
はくさい キャベツ	●生育促進●外葉の葉色がよくなる ●玉の大きさは変わらないが、結球葉数が増加し、玉のしまりがよくなる ●収穫期の揃い	定植1週間前	1回	800倍
		生育期間中2週間おき	—	400倍
レタス	●葉色が濃くなり、葉の厚みが増す ●球の充実がよく、パツキが少なくなる	本葉3枚（定植時）	1回	400倍
		定植後10日間隔	2回	400倍
ほうれんそう	●生育促進 ●葉色が濃くなり、光沢が出る ●葉の厚みが増す	2葉展開期	1回	800倍
		本葉6～8枚	1回	500倍
		間引き後	1回	500倍
にら	●葉に艶が出て厚みも増す ●品質（等級、規格）の低下防止	毎刈り取り後5日目	—	400倍
		毎刈り取り後15日目	—	400倍
野沢菜	●葉色が濃くなり、葉に艶がでる	播種後2週間おき	2回	400倍
きゅうり	●成り疲れ防止 ●樹勢の維持向上 ●曲がり果、くず果の減少 ●果実の色つやがよくなり、食味向上 ●生育期間延長で収穫量増加 ●収穫後の鮮度保持が向上	育苗期(定植3～7日前)	1回	400倍
		定植後	1回	400倍
		つる立て時	1回	400倍
		収穫期間中(7～10日おき)	—	400倍
トマト	●着花数（着果数）が増加する ●果実の色が濃くなり、食味向上 ●生育期間延長で収穫量増加	育苗期(定植3～7日前)	1回	400倍
		定植時	1回	400倍
		以降7～10日おき	—	400倍
なす	●成り疲れ防止 ●果実の艶がよくなる ●生育期間延長で収穫量増加 ●収穫後の鮮度保持が向上	接ぎ木後2～3日	1回	500倍
		定植3～7日前	1回	400倍
		収穫開始後7～10日間隔	—	500倍
いちご	●活着促進 ●良質花芽の形成 ●奇形果の減少 ●糖度、果色向上（特に冬場に顕著） ●窒素過多で開花不良時の開花促進	定植前(低温処理時)	1回	500倍
		定植時	1回	500倍
		定植後1週間おき	—	500倍
メロン	●果重の増加●糖度の向上	交配後7～10日間隔	2回	800倍
えだまめ	●初期の生育促進 ●収穫時期が早まる ●着莢数、着莢重の増加 ●食味の向上	間引き後	1回	400倍
		以後2～3週間おき	—	400倍

作物名	期待される効果	使用方法		
		散布時期	回数	希釈倍数
ソラマメ	●多粒莢の割合が多くなる	1回目：定植後7日		400倍
		2回目：開花7日後		400倍
		3-6回目：2回目以後10日間隔		400倍
きぬさやえんどう	●落花防止により莢つき歩合向上	開花期	1回	500倍
		収穫期	1回	500倍
にんにく	●球伸びの促進 ●A品の増加 ●L果の増加 ●収穫前の葉の枯上がり防止	りん片形成期	1回	500倍
		球肥大始期	1回	500倍
		球肥大最盛期	1回	500倍
こんにゃく	●2、3回目の定植後の発芽そろい	生育期間中	3回	400倍
水稻	●移植後の活着促進	育苗期（移植前）	2回	500倍
	●収量増加	開花前後	1回	400倍
なしもも おうとう 柿	●遅霜被害の減少 ●果実の肥大促進 ●生理落葉の減少 ●着色促進 ●果実の糖度アップ ●果実の収穫期の落果の減少	開花の前、開花中、開花直後のいずれかに1回。その後3回、2-3週間間隔		500倍
オリヅラン	●新芽の伸長促進 ●葉色が鮮やかになる ●花立ちがよくなる	生育期7~10日おき	3~4回	400倍
セントポーリア	●新芽の生育良好 ●花立ちがよくなる	生育期7~10日おき	4回	400倍
木立ベコニア	●葉に照りが出て、葉色が濃く斑も鮮明になる ●開花房が増加	生育期7~10日おき	4回	400倍
アイビー	●つるの伸長促進 ●葉色がよくなる ●分枝量が増加する	生育期7~10日おき	4回	400倍
ゼラニウム	●葉色が濃くなる ●枯葉が少なくなる	生育期7~10日おき	9回	400倍
菊	●下葉の枯上がり防止 ●葉色の向上 ●商品化率の向上	親株摘心時	1回	500倍
		挿し芽をする1週間前	1回	500倍
		定植時	1回	500倍
		ピンチ時	1回	500倍
		整枝時	1回	500倍
		整枝後2週間毎	—	500倍
バラ、カーネーション、アルストロメリア、トルコギキョウ、ダリアなどの花卉類	●切り花の持ちが良くなる ●高温期の育成維持 ●花や葉の色つき向上	生育期間中	1~2週間に1回生育期間中継続	400倍
茶	●2番茶以降の品質向上	萌芽期~開葉期	—	500倍

【注意事項】

- 使用する前にボトルをよく振って使用する。
- ほとんどの農薬との混用散布に問題はないが、下記の点に注意する。
 - ◆ 石灰硫黄合剤との混用はしない。
 - ◆ 他剤との混用は避けるような注意のある農薬との混用はしない。
 - ◆ ボルドー液等アルカリ性の農薬と混用の際は、希釈したボルドー液等に所定量のアミグローを加用する。
- 使いすぎると緑色が濃くなりすぎたり、樹勢が強くなりすぎることがあるので、作物の生育にあわせて、濃度、回数を加減する。
- 使用残りは密栓し、直射日光のあたらない冷涼な所に保管する。